

フェニックスセミナー 9 (PS9-1/PS9-2)



エコーを活用した 医師とメディカルスタッフの連携

座長 増島 篤 先生 (帝京平成大学 現代ライフ学部 経営学科 教授)

演者 岩本 航 先生 (江戸川病院 スポーツ医学科 部長)

我妻 浩二 先生 (かつしか江戸川病院 リハビリテーション科 科長)

オンライン
LIVE 配信

2020年11月29日(日) 15:00 ~ 16:00

※ **zoom** を使用して開催されます

【視聴方法】 学会 HPより参加登録をお済ませ頂いた方に
ログインID・PWを付与しログイン頂きます。
特設ページのオープンにおきましては
今後 HPにてご案内予定となります。



【認定単位】 日整会教育研修講演単位 1 単位 必須分野 1、2、5 / 日本スポーツ協会公認スポーツドクター
公認アスレティックトレーナー / 日本スポーツ協会公認スポーツデンティスト

PS9-1

エコーを活用した医師とメディカルスタッフの連携



¹江戸川病院 スポーツ医学科

岩本 航¹

運動器診療において、超音波診断装置(以下エコー)を使用する医師が増えている。近年では、理学療法士もエコーを積極的に使用するようになってきた。エコーを使用する利点は様々あるが、医師であれば単純 X 線で評価困難な軟部組織が描出できること、エコーガイド下に確実なインターベンションが行えることなどがある。理学療法士であれば、触診している組織の確認ができることや、筋の滑走やインピンジメントなどを動的に確認できることなどが挙げられる。理学療法士による評価は、医師とは違った視点で思わぬ情報が得られることもある。

最近では、各々がエコーを使用するだけでなく、互いに連携しながらエコーを活用するようになり始めている。それは、今まで困難であった画像情報による医師と理学療法士間の連携である。つまり治療者の感覚によって判断されていたものが可視化できることによって、情報を共有しながら評価や治療が行えるようになったということである。

特に我々は、医師によるハイドロリリースと、理学療法士による徒手運動療法を合わせた治療を積極的に行っている。これは医師が注射でリリースした神経や筋を、理学療法士が運動療法によって治療するものである。特に投球障害肩や股関節周囲など筋のタイトネスが原因となる部位で、この治療が有用であると感じている。

それぞれがエコーを用いて診療を行っていることは、お互いの治療に対する信頼に繋がっている。さらに患者や選手にも安心感を与えられるものと考えられる。今後もエコーが普及していくなかで、医師と理学療法士がエコーを活用する機会が増え、さらなる連携が行われていくことを期待したい。

PS9-2

エコーを活用した医師とメディカルスタッフの連携



¹かつしか江戸川病院 リハビリテーション科、
²江戸川病院 スポーツリハビリテーション、
³江戸川病院 スポーツ医学科

我妻 浩二^{1,2}

岩本 航³

【理学療法士がエコーを使用するメリット】

理学療法士がエコーを使用する最大のメリットは、可視化によって正確な評価・治療が可能になることである。理学療法士が行う評価と治療は対象者に直接触れることが必須であり、触診は運動器理学療法には欠かせない基本的な技術である。基本的な技術である一方、正確に触診するには熟練の技、経験が必要とされる。そのため対象者に高水準の技術を提供できるまでに成長するには時間がかかることが一般的である。

理学療法士は若い年代が非常に多く、理学療法士協会に加盟する会員のうち20歳代の協会員で4割以上を占める組織である。本邦の理学療法の水準を向上するには、この若手の成長が欠かせないと考える。エコーは、自身の触診をタイムリーに可視化することができるため、憶測ではない確かな情報を得ることができ、個人の能力を引き上げるツールとなり得る。

【共通言語化による医師との連携】

ターゲットとなる組織を可視化し、その画像を医師と共有することによって共通言語化が可能となり、ディスカッションできる内容が飛躍的に広がった。例えば、画像を共有し痛みの原因となる動態を見極め、ハイドロリリースを実施する場所や、徒手療法の方法を議論し方針を決定する。どんなに素晴らしい治療手技でも用いる場所やタイミングを間違えると効果は半減してしまうため、エコー画像の共通言語化による医師とのディスカッションは非常に重要と考えられる。また、理学療法士が医師と相談しながら治療を進める様子は患者にとっても安心材料になることが多い印象を受ける。

このようにエコーの活用によって医師と理学療法士の連携が図られ、患者にとって最適な選択が可能となる。当日は具体的な連携の方法を紹介していきたい。

会期中は企業展示 日本シグマックス特設ページへ！
期間限定の特別企画も開催！

学会特設ページよりダウンロード視聴可能！

動画「リハビリテーションにおける運動器エコーの活用例」

部位ごとのプローブ操作や実際のエコー動画、徒手的な介入までを解説！
前腕 / 肩 / 膝 / アキレス腱の全4部位を公開中！



特別企画開催中！

- ・「ポケットエコー miruco」を紹介！
- ・新作動画コンテンツを限定公開！
- ・アンケートにご回答でノベルティプレゼント！



特設ページはこちら